

視覚障害者の資格試験に関するアンケートから見てきたこと

NPO法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN)
認定NPO法人 視覚障害者の就労を支援する会 (タートル)



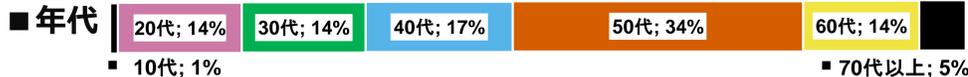
目的・実施方法

視覚障害者の資格取得の受験に関わる実態を明らかにすることにより、当事者の資格取得への意向向上につなげ、関係者に対しては、視覚障害者の受験時の配慮や、学習時の環境整備について改善を求めていることを目的とする。アンケートは、メールやSNSを通して依頼し、221名から回答が得られた。

なお、同様のアンケートは2018年にも実施し、視覚障害者リハビリテーション研究発表大会で結果を発表している。
【アンケート実施期間：2024年4月29日～5月31日】

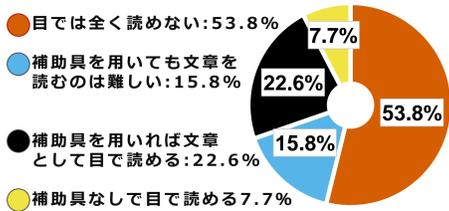
(1)回答者属性

■性別 男性:108人 (49%)、女性:107人 (48%)、回答しない:6人

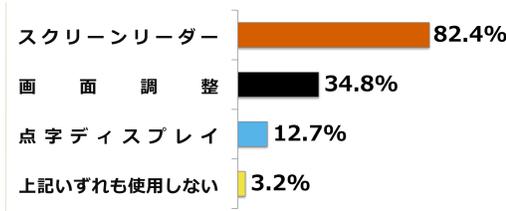


■身体障害者手帳(視覚障害)の等級 1級:64%、2級:24%、3～5級:各3%、6級:1% 他

■文字(墨字)の見え方



■PC情報取得



■職業

会社員 86人 (38.9%)	福祉施設職員 16人 (7.2%)	福祉施設の利用者 10人 (4.5%)
無職 33人 (14.9%)	教員 10人 (4.5%)	医療機関職員 8人 (3.6%)
公務員 22人 (10.0%)	団体職員 10人 (4.5%)	職業訓練施設の訓練生 5人 (2.3%)
自営業 19人 (8.6%)	学生 10人 (4.5%)	その他 7人 (3.2%)

(2)資格の取得状況 視覚障害になってからの受験経験率81%

■取得済み資格 (回答のうち2人以上を分野ごとに表示) ※複数回答

【医療・福祉関係】	【ICT関係】	【ビジネス関係】
1. あん摩マッサージ指圧師 68人	1. 日商PC検定・・・ 23人	1. 日商簿記検定・・・ 10人
2. はり師・・・ 58人	2. 日商PC検定文書作成・・・ 14人	2. 秘書検定・・・ 9人
3. きゅう師・・・ 57人	3. 日商PC検定データ活用・・・ 12人	3. 産業カウンセラー・・・ 5人
4. 社会福祉士・・・ 17人	4. ITパスポート・・・ 10人	4. 特約ケアマネ・・・ 5人
5. 介護福祉士・・・ 6人	5. 情報処理安全確保支援士・・・ 3人	5. 宅地建物取引士・・・ 4人
6. 介護福祉士・・・ 4人	6. 基本情報技術者・・・ 3人	6. 衛生管理者・・・ 3人
7. ホームヘルパー・・・ 4人	7. G検定・・・ 2人	7. ビジネス実務マナー検定・・・ 3人
8. 福祉用具専門相談員 3人	8. 第一種情報処理技術者 2人	8. ビジネス実務法務検定・・・ 3人
9. 公認心理士・・・ 3人	9. 情報処理技術者・・・ 2人	9. ビジネスキャリア検定・・・ 2人
10. 社会福祉主事・・・ 2人	10. 応用情報技術者・・・ 2人	10. 社会保険労務士・・・ 2人
11. 福祉住環境コーディネーター 2人	11. 日商ワープロ検定・・・ 2人	
12. 理学療法士・・・ 2人		

【語学関係】	【教育関係】	【その他の取得資格】
1. 実用英語技能検定・・・ 68人	1. 教育教員免許状・・・ 29人	1. アマチュア無線技士 7人
2. TOEIC・・・ 20人	2. 図書館司書・・・ 3人	2. アラビア語関係・・・ 7人
3. TOEFL・・・ 7人		3. 点字技能士・・・ 6人
4. 日本漢字能力検定・・・ 6人		4. メンタルヘルスマネジメント検定 4人
5. IELTS・・・ 3人		5. 防災士・・・ 4人
		6. MIDI検定・・・ 2人

■受けた配慮 (配慮があると回答された項目に○ 分野別上位のみ表示)

※回答者の受験当時の配慮の状況をそのまま掲載しておりますので、現状とは異なる場合があります。

配慮の種類 ①時間延長 ②スクリーンリーダー ③画面調整 ④DAISY ⑤朗読者 ⑥点字 ⑦拡大読書器 ⑧拡大文字

資格名(分野ごと回答数順)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
医療・福祉関係								
あん摩マッサージ指圧師	○				○	○	○	○
きゅう師	○				○	○	○	○
はり師	○				○	○	○	○
社会福祉士	○	○			○	○	○	○
介護支援専門員	○				○	○	○	○
精神保健福祉士	○				○	○	○	○
公認心理師	○	○			○	○	○	○
理学療法士	○				○	○	○	○
言語聴覚士	○				○	○	○	○
臨床心理士	○	○						
教育関係								
教員採用試験	○						○	○
学士認定試験	○	○						
図書館司書	○						○	
放送大学の定期試験	○							
ICT関係								
日商PC検定	○	○	○				○	
ITパスポート	○	○					○	
情報処理技術者	○						○	○
基本情報技術者	○						○	○
情報処理安全確保支援士	○						○	
ビジネスコンピューティング検定	○	○	○					
応用情報技術者	○						○	○
初級システムアドミニストレータ	○						○	
情報セキュリティスペシャリスト	○						○	○
G検定	○	○						
Microsoft Office Specialist	○						○	
ビジネス関係								
キャリアコンサルタント	○	○	○					○

■学習方法、使用教材の種類

※複数回答(回答数221)

学習方法については、学校42.5%と独学39.8%で半数を占めていた。以前は見られなかった傾向として、通信、Eラーニングを含む試験対策講座27.6%(一般21.3%、視覚障害者向け6.3%)が多くなり、オンラインでの受講が広がっていることがうかがえた。職業訓練施設19%(視覚障害者向け16.7%、一般2.3%)、友人知人とのグループ学習10%、その他5%。

使用教材の種類については、データ43.4%、点字34.8%、一般の墨字25.3%、webページ22.2%、録音図書15.4%、拡大文字10.4%、イラストや漫画などの画像2.7%、その他7.2%だった。その他では、電子書籍やYouTubeなどのオンライン配信を教材として使用している状況もうかがえ、今後増加が予想される。

■配慮が不十分と感じた点

※複数回答(回答数27)

受験時に配慮はあったものの不十分と感じた点については、障害の状況に応じて必要な配慮も変化することを伝えて交渉していくことの困難さを挙げる意見が多かった。点字受験での回答方法の説明不足や、スクリーンリーダーが使用できても環境依存文字が使われていて正確に読上げなかったり、代読や代筆者の知識や能力不足で正確な情報を入力できなかったりしたなどの意見があった。同じ試験でも実施団体によって配慮に差があったり、スタッフの認識不足で認められている配慮が受けられなかったりするという意見もあり、いずれも公平な受験環境で資格試験に臨むための配慮としては不十分であったと考えられる。

一方で、スクリーンリーダーが試験中の専門用語などの文章を正しく読み上げるように設定するなど、視覚障害者の立場に立った配慮がされている資格試験もあり、今後の広がり期待したい。

■希望する配慮が受けられないために受験できなかった資格

※回答者の多かった資格について、受験当時希望していた配慮を掲載しています。 ※自由記述複数回答(回答数49) ※回答者が受験を希望した時点での状況です。配慮については現状とは異なる場合があります。

希望していた配慮の種類	受験できなかった資格名	希望していた配慮								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
①時間延長	日商簿記検定		1		2	2				2
②スクリーンリーダー	デジタルリテラシー認定試験	3								
③読上、デフォ	日商PC検定			3						
④点字	MOS	1	2				1			
⑤拡大読書器	高度情報処理技術者試験	1	1				1			
⑥問題用紙やテストの整備(デジタル化等)	介護初任者研修			1				1	1	
⑦マーク入力対応	神奈川大学	1	1					1		
⑧音声入力	世界遺産検定			1					1	1
⑨紙での受験	ITパスポート	2								

回答の得られた資格は46種類あり、必要な配慮があれば受験しやすかった資格が多くあることがわかった。記述された内容からは、視覚障害者の個々の見え方は多様なため希望する配慮のニーズも多様であることがうかがえる。同じ試験に対しての配慮でも、PCでの受験やデータ化、紙の問題用紙で拡大鏡の利用、点字での受験など、さまざまな配慮が必要とされていることがわかった。

また、講習が受けられなかったという意見や試験会場が自宅から遠いという意見もあった。すべての会場で同じ配慮が受けられない資格がある実態も明らかになった。

上記の表以外で回答のあった資格(種類別、五十音順)

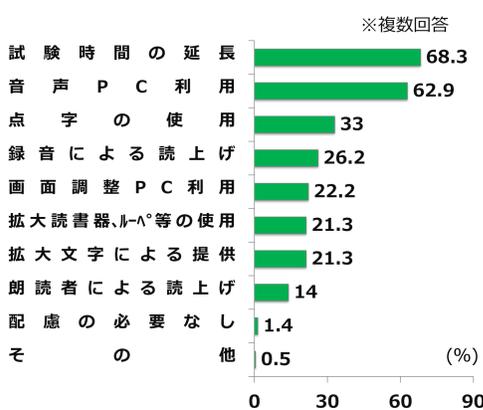
【医療・福祉関係】	【語学関係】	【ビジネス関係】	【その他の取得資格】
医療事務	観光英語	行政書士試験	アマチュア無線技士
介護支援専門員	国連英語検定	アラビア語関係の資格	防災備蓄収納プランナー
サレバ管理責任者実施研修	TESOL	アカデミックの資格	ホームオパシー
精神保健福祉士	TOEIC	社会保険労務士	SPI試験
薬剤師	TOEFL	ファイナンシャルプランナー	MIDI検定
【教育関係】	日本医学英語検定試験	【ICT関係】	色彩検定
大学院の受験		情報処理技術者試験	睡眠指導士
図書館司書		情報処理技術者試験	コア時管理能力検定
			歴史検定

(3)取得したい資格

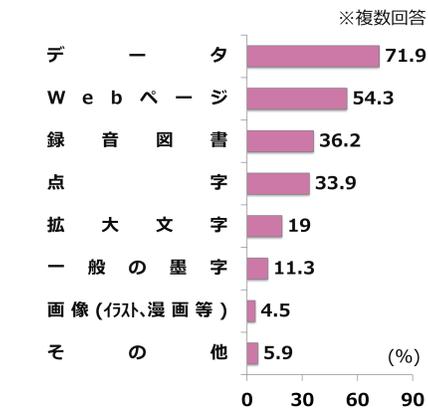
※複数回答(回答数172)

国家資格、公的資格、民間資格、多種多様な資格があげられた。中でもITパスポートやMOS、日商PC検定などのPC技術・情報処理関係、TOEICなどの語学系、実務的な衛生管理者や社会保険労務士への関心が高かった。

■今後資格試験で受けたい配慮



■希望する教材形式



(4)資格取得についての意見

※自由記述(回答数117)

以前よりも改善がみられたことや配慮への感謝の意見もあったが、多くの試験では未だ配慮が不十分な様子がうかがえた。個々の状態に応じた様々な合理的配慮(公平な受験環境)の必要性を訴えていくうえで、配慮を要望できる共通の窓口の設置を望む声が多かった。また、試験での配慮の状況の情報共有、教材や学習環境の改善を望む意見が多く寄せられた。

考察と今後への展望

今回のアンケートでは、2018年(107人)の倍以上の回答数(221人)が得られ、ポスターに反映しきれなかったものも含め多くの意見を収集することができた。

視覚障害者の資格取得への意欲は高く、職業に直結するものから趣味、教養関係など幅広い分野に及んでいるが、学習や試験実施方法などで受験できない、あるいは受験が困難な試験が未だ多くあることが明らかになった。

試験実施機関には、見え方や視覚障害者になった時期によって情報取得の方法は多様であり、必要とする配慮もさまざまであることを訴えていきたい。また、情報通信技術の発達による社会の変化の中で、視覚障害者のスキルも上がりPC利用の状況も変化してきていることを踏まえた対応が求められている。

今後、視覚障害者の資格試験受験の支援をしていくうえで、当事者ニーズに応えられる体制づくりや、試験実施機関に対する積極的な啓発も必要で、それにより、視覚障害者の社会での活躍の場が更に広がると考える。

上記の課題に対し、タートルとSPANは引き続き積極的に関わっていきたい。